

まてふ言ふ所痛きを負ふものいぢりり
河田公よりしりゝひ年いたりし終りたり今
ハ甚とまり自害せんと言ひき江中條と此留
むと同一て帝尋ねの死を公の月かほと一
そて飛田が舟佐と新たまり友人の人質を突
殺し各並居て繁く切腹をとり多りり
年終にこれをもんて今一年と只し終り又款
中に切てつう十文トハとせ過りハ文トハ過ち
し思ふに致して款と終て死達て死するもあ
り切死するも有り又相重二十金の款中と切腹

て致後一ゆき多りりりりあ不難なく英陳
の城を攻めしりり

秀吉江北着陣七布張之振太方の事

云龍不跡初より秀吉ハ風の殺するよりと迷不
然り藏り地付より逃却たまりと棄也とて
飲者飯よりとりむし係りあふ早醒の君者
凡二千四百餘名をせに追付りてより茶
臼山小堀切を押しこたれ後所の軍路阻みハ
也續く千石相築との「猿馬場」狭き谷に
ありきと懸ちる勢よりつぎとつぎみりり